

「学生王子」(“Student Prince”)の説明

(関連サイト情報を参考に編集)

「学生王子」(“Student Prince”)は、もともとは、マイヤー・フェルスター(ドイツ)の戯曲「アルト・ハイデルベルク」にもとづき、アメリカのドロシー・トネリーが台本、脚色、シグムンド・ロンバークが作曲したオペレッタ、1924年作品。旋律の美しさに溢れる。(ちなみに、エルデの第6回定期演奏会で演奏した「ニュームーン」もロンバーク作曲、1928年作。)

「学生王子」は1924年12月にブロードウェイで初演され、608回のロングランを記録した。これは当時としては最高のヒットであった。1928年に最初の映画化、1954年には2度目の映画化がされた。後者は邦題「皇太子の初恋」として日本でも公開されたが、それはちょうど皇太子(現天皇)ご成婚のニュースが世間を騒がせていた頃でもあった。

今回エルデが演奏する北村協一編曲による男声合唱「学生王子」は、1960年に慶応義塾ワグネル・ソサイエティーが初演。以降、ワグネルは定期演奏会、OB演奏会、中国公演等の機会に「学生王子」を演奏している。1975年には、二期会がオペレッタとしての初演(日本語)を行なっている。

なお現在でも、ドイツ・ハイデルベルクでは、毎年夏の“ハイデルベルク城フェスティバル”の定番として、城内野外でオペレッタ「学生王子」が上演されている。

【あらすじ】

東ドイツ、カールスブルグ王国のカール・フランツ王子は国王を継ぐ立場にあり、厳格な格式張った環境で生活をしてきた。 学齢期となり、学問の習得と社会勉強のため、教育係のエンゲル博士に伴われ勇躍ハイデルベルク大学に入学する。

大学では学生たちが青春を謳歌していた。王子の下宿先の居酒屋には毎晩学生が集まり飲み騒いでいる。王子は下宿屋主人の姪ケティに一目惚れ、学生生活を楽しみながらも、お互いに愛を育んでいく。

数箇月後、国王重病の知らせに王子は急遽帰国、国王死去に伴い王子は王位を継ぐ。帰国後2年が過ぎ、定められた許嫁との結婚を待つ身となる。

やがて国王フランツはハイデルベルクに一時戻ることができ、ケティに再会する。二人は結ばれ得ない身分とわかった上で、変わらぬ愛を互いに明かしつつ別れを告げる。

【エルデ演奏曲についての一言コメント】(北村協一編曲の内、“Student Life”は今回演奏しない)

“Golden Days”

王宮で、エンゲル博士が母校ハイデルベルク大学でのよき時代を追想し、王子に語り聞かせる。

“Drinking Song”

居酒屋で王子と学生たちが飲み、騒ぎ、歌う。(エルデも2005年「千の風の物語」に出演時、演奏)

“Deep In My Heart Dear”

王子が一目惚れしたケティに、自分の胸の内を明かす。

“Serenade”

王子や学生たちが恋人や想いを寄せる女性へ捧げる歌。(Drinking Songとあわせ最も知られた曲)

“Student March Song”

酒を愛し、青春を謳歌する学生気質を表す威勢の良い歌。 人名をもじった駄洒落も混じる。

(2012.7 HG)